ぎかい

2014.1.17

小国町議会だより　第119号

「白い森杯柔道大会2013」開会式
参加　90チーム　450人

大会の目玉「山形・新潟県選抜対抗戦」

小国産の原木で製作した「楯」と「木メダル」

新春を迎えて

主な内容

■12月定例会概要	2～3 ページ
■一般質問	4～10 ページ
■委員会レポート	11 ページ
■議長年頭のあいさつ	12 ページ
■おらもおぐに町民	12 ページ

小国町議会
ホームページ　http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html
e-mail　gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会　検索

万6千円を可決！
億70万6千円

平成25年
12月定例会
12月5日(木)～10日(火)

12月定例会は25年度各会計の補正予算６件、条例の制定７件、小国町病院事業会計資本金の額の減少、小国小学校改築事業建物外構工事請負契約の一部変更が提案された。審議の結果、一般会計補正予算をはじめすべて原案どおり可決された。また、請願１件については採択となった。一般質問は７名が町政の諸問題について質問した。

一般会計補正　　総額1億3,547万6千円

◆子ども子育て支援事業計画策定ニーズ調査及び全国共通システム導入　580万円

◆学校統合に伴う通学体制見直しによるスクールバス２台(14人乗り)の購入　630万円

◆小国町文化振興基金積立金　3,200万円
町民の芸術文化活動の振興、発展を図ることを目的とした基金造成のための積立金

元気な保育園児

特別会計補正

◆介護保険特別会計
介護保険料システムの改修など

企業会計補正

◆病院事業会計
リハビリ棟増設にともない国民健康保険会計から調整交付金を補助

請　　願

◆小国町の農業再生・農業振興と平成26度農業予算確保に関する請願について
議決結果　採択

※詳細は、インターネット録画映像でご覧になれます。(小国町議会 HP よりアクセス)

一般会計補正1億3,547

補正後の予算総額78

条例の制定

◆小国町文化振興基金条例の制定
（財）小国町文化振興基金の解散にともなう残余財産の寄付を受けて芸術文化活動の振興、発展を図るため基金を設置するもの

◆小国町税条例の一部を改正する条例の制定

◆小国町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定

◆小国町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定

◆小国町小学校設置条例及び小国町中学校設置条例の一部を改正する条例の制定
平成26年４月までに統合する学校の設置条例の廃止

◆小国町中央児童室設置条例の一部を改正する条例の制定
現在建築中の新小国小学校内に整備している中央児童室の住所、定員の変更

◆小国町移動通信用鉄塔施設の設置及び管理条例の一部を改正する条例の制定

工事請負契約の変更

◆小国小学校改築事業建物外構工事請負契約の一部変更
完成工期を平成25年12月27日から、平成26年３月20日に変更

小国町病院事業会計資本金の額の減少

◆小国町病院事業会計自己資本金15億7,233万4,443円のうち、10億7,371万7,000円を減少し、資本剰余金に振り替える。
（地方公営企業会計制度見直しにともない、新たに設けられる長期前受金等を確保するための措置）

臨時議会　12月26日（木）

財産の取得

◆スクールバス（14人乗り）２台
契約額　7,366,696円（税込み）　　**業　者**　㈲塩川自動車整備工場

GENERAL INTERPELLATION ■ **KOSEKI KAZUYOSHI**

「道の駅」の活性化と「農産物直売所」建設は

小関和好

6次産業・観光産業の発展は「道の駅」と「農産物直売所」の活性化がカギ

小関 平成23年議員就任後、小野町長及び就任間もない盛田町長に一般質問をしてきた。

いずれも「道の駅」に関してであったが、前向きな答弁をいただいた。

しかし、進展が見られないようなので、再度初心にかえって質問する。

①「道の駅」の役割は

②「道の駅」活性化の対策は

③「道の駅」をどうしていくか

④「農産物直売所」は、どうなったか

引き続き利便性を高める環境づくりに取り組んでいく

町長 「道の駅」は、災害時の防災拠点、交流活動拠点など、多岐にわたる機能を担ってきている。なかでも、観光交流の拠点機能においては、地域の特産物販売等、地域活性化の大きな役割を担っていると認識している。

道の駅の活性化対策としては、「情報コーナー」に通年、案内人を配置し年間約2万人に対し情報を提供している。また、季節に応じて様々な「食」のイベントを行い喜ばれており、環境整備も順次行っているところだ。

道の駅は、観光交流者の拡大と地域経済の活性化に大きな効果が期待される施設であるので、引き続き、利便性を高めるための環境づくりに取り組んでいきたい。

「農産物直売所」に関しては、今年度に至るまで関係団体との合意形成に至っていない状況にあり、現状では、実現不可の事業であると判断せざるを得ない状況にあり一旦白紙に戻すべきものと考える。今後は、道の駅全体の活性化を図るうえのひとつとして新たに検討したい。

小関 以前行った「農産物直売所」の設計経費約300万円のうち約70万円の補助金をうけていると聞いているが、230万の税金は、どうなるのか。

また、補助金は、返還しなくてよいのか。

産業振興課長 白紙とはいえ、今後も計画は、検討していくので、補助金の返還の義務はない。

その他質問

＊おぐに開発総合センターの老朽化に関して

＊小国町の農業に関して

にぎわいが期待される「道の駅」

KON MASANORI ■ GENERAL INTERPELLATION

今　正徳

一万人の町づくりについて

今年度の施策の効果は

今 人口一万人につながる今年度の施策、事業の進捗と、その実績・効果を伺いたい。

町長 一つ一つの施策、あるいは総合的かつ様々な施策をとった結果、それによって人口がプラス何人になったという具体的な根拠は、申し上げることはできない。

町の人口は、私が就任してからも減少しており10月末現在で8，548人となっている。

今 人口一万人に向けての今後の取り組みを聞きたい。

町長 小国町総合計画基本構想に掲げた四つの柱に基づいた具体的な施策事業を構築していく。

今 人口増の目標値を立てたか。

町長 現在26年度予算の編成中で、それぞれの施策事業がこれから出てくる。そこで施策事業の評価、また今後、効果の検証を図りたい。一万人をどういう事業で達成するかについても、これからの検証作業ということであるが、少なくともこれをしたから何人増えるという施策のつくり方はしていない。

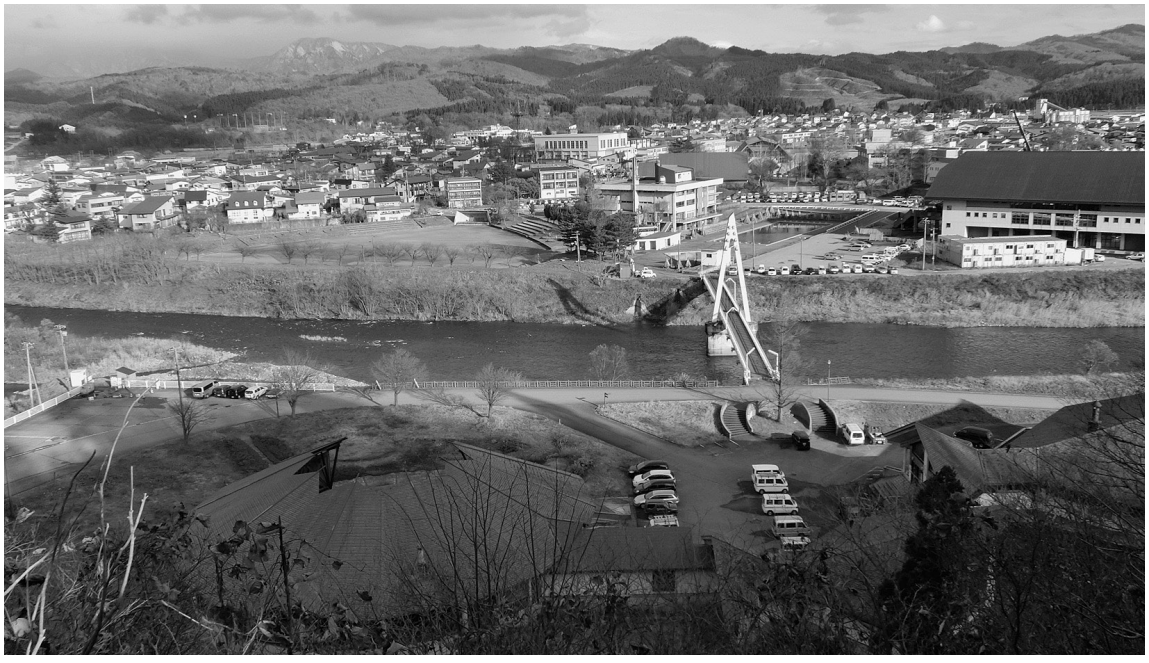
数値目標一万人の撤回を提案する

今 一万人の町づくりの今後の取り組みにおいて25年度のような施策事業の内容では、人口増加は多くを望めない。

数値目標の一万人と現在の人口8，548人の差が1，452人と大きく、これを任期2年4か月での達成は不可能と考える。以上の理由から数値目標一万人の撤回を提案したいと考える。

「一万人復活の町づくり」を続ける

町長 これまで25年度の施策を行ってきて、それなりに効果をあげていると思っている。引き続き、町民主役の町づくりを基本理念に「一万人復活の町づくり」をこれからも続けていきたい。



人口一万人復活を目指す小国町

GENERAL INTERPELLATION ■ **ABE HARUMI**

人工透析の進捗は

安部春美

町立病院で人工透析をするという公約は

安部 現在、小国町で人工透析を行っている患者は21人と聞いている。平均年齢は64・8歳で、高齢化に伴い大変な思いで通院されていると思う。患者のかたは町外の病院で透析を受けているが、冬期間は吹雪の日など大変苦労され、病院に通院されている。

また、事情により相乗りで行かれる方もいると伺っている。町立病院で人工透析をできるようにするという公約は、現在どのように進んでいるのか伺いたい。

長期的視点に立って計画的な人材確保に努めていく

町長 私は、就任後、まずは、本町における透析患者の実態、患者の生の声を大きく発していくことが最初の段階であると判断し、町内の透析患者さんたちで組織している「小国町人工透析通院患者の会」の会合に出席して情報・意見交換をさせていただいた。それを基に国会議員をはじめ中央省庁や山形県庁など、関係機関を訪問し、厚生労働省幹部、吉村山形県知事など、有力な立場の方々に、実現に向けて多面的な支援をお願いしてきた。

こうした町の透析患者の実情を訴えていく行動や情報交換で明らかになっている具体的な課題は、従前と同様に透析専門医や看護師、医療技術者等の確保であるため、長期的な視点に立って計画的な人材確保に努めていきたいと考えている。なお、実現までに時間を要するものと認識しているので、一層のご理解とご支援をいただきたい。

小国町立病院

KOBAYASHI YOSHIMI ■ GENERAL INTERPELLATION

小林　嘉

町の仕事 着実に進めよ!

体験観光事業の継続を

小林 まちおこし、観光振興につなげる目的で森林体験・森林セラピー事業を委託し、交流客が着実に増えていると聞く。継続して委託し、さらに進めるべきと考えるが今後の対応を伺いたい。

前向きに考える

町長 小国町ならではのプログラムを企画している。

近年の旅行形態は、テーマや目的を明確にし、体験などを組み込んだものの人気が高まっている。当町の魅力を発信していくために、非常に有意義な事業と考え、前向きに考える。

長期雇用は産業創生で

小林 「人口一万人復活」を目指しているが、人口を維持し増加に転じるためには、若い人の職場の確保が必須である。昨年度卒業の小国出身高校生の進路状況と町の「雇用の場創出」の取組を伺いたい。

既存企業の安定対策を実施

町長 平成25年3月卒業の本町出身の高校生は88名、就職した30名のうち小国町内就職者は10名、置賜管内6名であった。若い人が定着できる雇用の場の確保のため、既存企業の雇用維持支援、融資事業や雇用促進奨励金の交付などの施策を行っている。

農業の六次産業化は芽がでてきた事業を育てる努力をする。

新小国小の4月開校は

小林 来年2月末に、新校舎完成の予定だが、工事の進捗を聞きたい。また、厳冬期末となる引っ越し作業の準備は大丈夫か。

開校に鋭意努力する

教育次長 工事は、11月末現在、75パーセント完了の進捗である。請負契約の一部変更により23億7千万円の工事費となり、工期は平成26年3月14日まで延長となる。

引越しは春休みに集中して実施する予定であり、学校と十分協議して進める。

幸町流雪溝の円滑利用は

小林 新設の導水路により懸案の幸町全域利用が可能になる。利用準備について伺いたい。

官民一体の取り組み必要

町長 用水の管理は地区組織で行い、取水の確保、利用調整は町が行う。

十三峠散策体験プログラムによる交流

GENERAL INTERPELLATION ■ **SAITO YASUKE**

統合は苦渋の決断
＝叶水小中学校統合はいつ＝

齋藤弥輔

小中学校の統合について

齋藤 9月定例会において、叶水小中学校の統合に関する進捗状況を質問した。

町長は「苦渋の思いで統合された地域との平等性や、新小国小学校と小国中学校が連携した新たな教育実践を望む声も大きいことから、叶水小中学校も統合に理解を示していただきたい」、また、その後の耐震化はどうするのかとの質問に「そろそろ最終的判断の時期である」と答弁した。9月定例会後の話し合いの経過と最終判断の時期はいつなのか。

学校設置者としての町長はどのような判断をするのか。

平成27年4月統合を目指す

町長 9月30日に教育長と教育次長が保護者と懇談し、10月21日の教育委員会で平成26年度統合は難しいと決定された。その後、11月15日に保護者と懇談し、「なんとか平成27年3月閉校、4月統合をお願いしたい。これは町長として苦渋の決断であり、ご理解をいただきたい。」と申し上げた。

11月26日に地域懇談会を開催し、保護者を含め30名程度の出席者に私から統合への具体的な考えをお話し統合への理解をお願いしたが、統合反対に対する強い意思を感じた。今後も平成27年度統合を目指し、より一層懇談を重ね、理解を求めていく。

叶水小中学校

齋藤 現在、話合いは平行線であると聞いているが、11月26日の地域懇談会はどのような状況であったのか。

教育長 地域からは保護者が反対しているのに統合に賛成はできない、他地域からの移住や若い夫婦のUターンなど地域をあげて叶水の教育を支援している等の反対意見に終始し、統合への理解を得るには至らなかった。

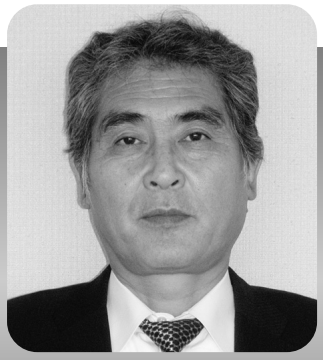
齋藤 今まで統合し、閉校してきた学校の利活用と地域コミュニティ活性化の取組が進んでいる。統合後、利活用が活発となり、他の地域に目に見える状態であれば、叶水地域の方々も統合後の不安も少なくなるのではないかと思うが。

教育次長 全体の空き校舎の中で利活用をどうするか、有識者の意見をいただきながら検討している状況である。

齋藤 平成27年度叶水小中学校の統合を目指す、と学校設置者である町長が決断をしたが、今まで統合してきた各学校において理解と合意を得た時と同じように叶水小中学校の保護者・地域の方々にも合意を得て27年度の統合を望みたい。

町長 何度でも足を運んでご理解を得たい。

HONMA YOSHINOBU ■ GENERAL INTERPELLATION



本間義信

安心見守り事業 具体的な施策を

安心見守り事業の充実強化について

本間 サービス付き高齢者住宅の必須条件となっている安否確認と相談支援サービスを地域で展開し、在宅で安心して暮らすことができるまちづくりを実践すべきでないか。

「小国町地域福祉計画」で具体的な施策を組み立てていく

町長 本年4月1日現在の本町における65歳以上の高齢者の人口割合、高齢化率は34％で、全国平均より10％程度高く、県内で3番目にあり高齢化が先行し進行している。

特に、施設入所者を除いたひとり暮らし高齢者数は382名で、その割合は県内で2番目に高い状況にある。

また、要支援・要介護者は575名で、このうち在宅で生活しているかたは、370名程度の状況となっている。さらに、特別養護老人ホーム「さいわい荘」の待機者は、10月1日現在で113名いるが、このうち53名が要介護1及び2の方であり、新たな国の方向性に照らした場合、原則的にはこの方々の入所が限定される状況になる。

ご存知のとおり、本町は生活圏が広範囲にわたっており、人口減少や少子高齢化の急激な進行により各家庭における生活の変化や集落機能の低下など、生活環境が大きく変容してきている。

このことを踏まえ、今年度「小国町地域福祉計画」の策定に着手し、今後ますます進展することが予想される高齢社会における安心した生活空間づくりを目指し、国の動向を見極めながら、施設介護の方向性、在宅介護のあり方等について、地域コミュニティとの関連性を検証する。また、本来の実態に合った総合的な施策の推進策を整理するとともに、「住まい」や見守り、相談を含めた「生活支援」「雪対策」などの地域課題に対する具体的な施策を組み立てる予定としている。

今後とも高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりを進めていく。

長沢地区地域サロン　健康体操の様子

空き家の積極的活用を

本間 空き家を積極的に活用して人口定着に結びつくような町独自の対策が必要ではないか。

その取り組みを進めていきたい

町長 本町では、住宅リフォーム総合支援事業を平成23年度から実施している。近年では、持ち家の改修等に加え、勤労者が空き家を取得し、住宅として改修する際に本制度を利用するという事例もでてきている。こうした動きも踏まえ、空き家対策については、その実態の把握を進め、行政と所有者の役割や具体的な施策展開の手法について様々な見地から検討を加え、町内での定住を促し人口流出に歯止めをかけるとともに、外部からの移住を推進し人口増に寄与するという観点から、その取り組みを進めていきたいと考えている。

GENERAL INTERPELLATION ■ **TAKANO TAKEHITO**

役場総合案内は本当に必要か

高野健人

総合案内窓口について

高野 総合案内窓口を始めて8か月が経過した。町長は職員研修、職員育成のため必要であり、マニュアルを作り案内の徹底を図る、と言っているが、その後どのような内容で案内を行っているか、また、1日何人の案内があるのか。

窓口機能の強化を図る

町長 来庁された方への対応についてはマニュアルを作成のうえ、きちんと挨拶をし、和やかな雰囲気づくりに心がけている。職員研修は、自分の部署以外の業務内容を理解することや、来庁者に対する接遇により、職員の意識向上に繋がっている。1日当たりの平均案内件数は16件となっている。

高野 課長や室長、又、庁舎外に勤務している人は除いているが、研修、育成のために必要ということと矛盾しないか。

町長 来年も継続し、庁舎外の職員も行う。今年は最初なので、庁舎内の職員で始めた。

二度手間では

高野 来庁者は圧倒的に町民税務課が多いが、「二度手間」であることは間違いない。職員研修の前に住民サービスが優先すると思うが。

町長 窓口担当者は、町民税務課へ案内し、職員が来庁者の来意を伝える。

本当に必要か

高野 来庁者に定着しつつある、というが、本当に必要か。

町長 町民サービスの向上、職員研修のために必要である。

高野 職員が足りないといっているのに、来年も続けるという。職員の気持ちも沈みがちで、町の損失であり、行財政改革の後退に繋がると思うが。

町長 もし職員の気持ちがそうであるなら、まだ研修の効果が出ていないということなので徹底したい。

町長の報酬は適正か

高野 報酬審議会が開催されたと聞いたが、そのメンバーと会議の内容、そして、自身の報酬について町長はどの様に考えているか。

町長 本年1月、7名の委員を選任し、特別職全ての報酬について審議をいただいた。審議会は九年ぶりの開催であり、特別職の報酬は、現行額の維持が妥当、との意見であった。

高野 町長報酬の見直しはないか。

町長 見直しのために審議会を開催したので、審議会の答申を真摯に受け止めたい。

その他の質問

＊公用車について

役場総合案内窓口

総務厚生常任委員会

■視察報告

＊視察年月日
平成25年10月10日～11日

＊視察先
長野県山形村・長野市

＊概　要
高齢化率は、24・3％と低いものの、一歩先を見据え、村と社会福祉協議会が一体となって、きめ細やかな手厚いサービスを展開している高齢者福祉施策、地域福祉活動等の視察を行った。

小国町では、「癒しの園」を中心として地域包括ケアを進めているが、支援可能な関係者のネットワークづくりにより、さらに充実させていくことが必要であると感じた。

高齢者専用住宅として長野市の整備した市営住宅を視察した。バリアフリー化、緊急通報システムの設置、生活援助員常駐など、自立できるよう在宅生活の支援を行っていた。

小国町は、一人暮らし高齢者の割合が高く、包括ケアを進めていく中で「住まい」に関する取り組みは、非常に重要である。高齢者の「住まい」と「福祉」を総合的に考えていかなければならないと感じた。

山形村の高齢者福祉施設

文教産建常任委員会

■視察報告

＊視察年月日
平成25年10月28日～29日

＊視察先
宮城県大崎市・大郷町

＊概　要
大崎市の第三セクターの運営状況の視察と大郷町の6次産業化への取り組みを視察した。

大崎市の第三セクターは、温泉施設とパークゴルフ場等4施設を運営しており大変厳しい経営を迫られていたが、今後3年間で赤字をゼロにする計画に取り組んでいた。

大郷町の6次産業は、モロヘイヤの苗を全戸配布するなどモロヘイヤの加工品を中心に進めてきたものである。

平成12年度に産直施設が開設されたことにより農産物の販路が拡大し、多くの農業者が農産物を売るだけでなく加工・販売にも取り組むようになった。

本町でも第三セクターの経営努力と産直施設の早期建設を望むものである。

賑わいを見せる大郷町農産物直売所

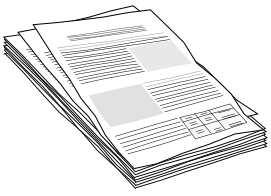
議会広報特別委員会

＊研修年月日
平成25年9月30日～
10月1日

東京都で開催された「第79回全国町村議会広報研修会」に参加した。

文章表現の重要性と記事のレイアウトや写真の撮り方・使い方など講義を受けた。

また、他町村の広報紙から学ぶ事も多く、当議会広報の更なる充実に取り組んでいくこととした。



小国町・関川村議員交流会

毎年、恒例となっている関川村議会議員との交流会が11月6日(水)関川村を会場に開催された。

当日は、関川小学校を訪問し、電子黒板やタブレット端末を使ったＩＣＴ（情報通信技術）授業を視察した。また、佐藤忠義副村長から村政やまつりサミットなどについて講演をいただいた。

関川村副村長の講演

おらもおぐに町民

町の人からちょっとひとこと

プロフィール
氏名　多勢　信人
年齢　五十五歳
住所　小国町岩井沢（丸清鮮魚店）

Q「白い森林柔道大会」を始めたきっかけは？

土、日に他校の中学生と練習をやろうとしたり、大会に参加するときは町外や県外に出向かなければならない。出向いていくだけではなく、町外や県外から、この小国町に中学生を集めて大会や練習会をやってみたいと考えた。県境の地であるが、山形市と新潟市どちらからも約80キロ。ちょうど中間地点であることを逆手にとって、山形新潟両県の中学生が一同に会し、柔道を通して交流を深める場にしようとした。

Q大会の特色は？

「手づくりの大会」ということ。約90チーム450人もの選手が集まる大会。6面の試合場をつくるために400枚近い畳を敷かなければならないが、部員はもとより柔道スポ少OBやOG、またその保護者の皆さんの協力が大きな力となっている。大会では、ドリンクコーナーを設け、保護者の皆さんが参加者をもてなしている。地元の菓子店提供のお菓子も好評。また、玄関前では、認定農業者協議会の出店が立ち並び、閉会式後の餅まきも大会の名物となっている。

さらに、70ほどの企業の皆さんや個人の方からプログラムに広告を出してもらうなど、多くの方々から支援をいただく大会となっている。

300人程が町内に宿泊し、2日目の合同練習会で技を磨いている。

Qこれからは？

いろいろな人に直接関わってもらうことで、柔道のすばらしさに関心を持ってもらいたい。畳運びや会場ボランティアも大歓迎。

2日目の合同練習会

年頭のあいさつ

小国町議会議長
伊藤重廣

新年あけましておめでとうございます。

昨年は大雨による災害が全国各地で発生し、県内でも大きな被害がありました。

さて、国内経済は、アベノミクスによる景気の回復が報道されているものの、町内においては、人口の減少、消費の低迷が続いており、将来への希望を実感するまでには至っておりません。

今後とも、町民皆様のご意見をお聞きしながら行政とともに活力あるまちづくりに邁進していく所存であります。

町民皆様のご多幸を御祈念申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害や東京オリンピック決定など、さまざまな出来事がありました。

本年は午年です。午年は経済、農業にも良い年で、特に左駒の飾り駒は、馬の字が逆さに書いてあることから「うま」の逆さは、「まう（舞う）」となり、縁起の駒とされています。また、馬の口は細いことから入ったお金が出ないことも富のシンボルとされているようです。

本年は山形デスティネーションキャンペーンが6月から9月まで開催されることから、町が観光業者及びJRグループと連携して、交流人口の増加と本町のもつ広大な自然環境と隠れた宝物の発掘などで、観光振興が出来ればいいと思います。ともあれ、小国町が華麗に「舞う」ことを願い、本年も良い年になりますように。

遠藤（記）

発行責任者
議　長　伊藤　重廣
議会広報特別委員会
委員長　齋藤　弥輔
副委員長　小関　和好
委　員　小林　嘉
委　員　遠藤　和彦

小国町議会だより　平成26年1月17日発行　発行　山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町二丁目70番地小国町議会　編集　議会広報特別委員会　☎0238-62-2448　印刷　㈲加藤印刷　☎0238-62-2259